

DX時代の農業戦略 ～データ農業と地域ブランド～

高齢化、担い手不足に悩んでいる、スマート農業に関心はあるがどこから手をつけていいのかわからない、農産物をもっと高く売するためのブランディングを考えたい、そんな課題に直面する市町村職員の方に最適な研修です。地域で農業のデジタル化を進め、儲かる農業を実現することは定住増や税収増に繋がります。

本研修では、DX農業に関する座学に加えて、バスで千葉市農政センターを訪問、千葉市が進めるDX農業の現場を見た後、首都圏で移住したい街7年連続No1に輝く千葉県いすみ市が取り組む有機農業についても現地学びます。農村部を抱える市町村が取り組むべき農業戦略について議論し、農業を通じた地域産業の振興に必要な知識の習得と実務遂行能力の向上を目指しましょう。

この研修は、申込期限までに定期人事異動の関係で受講者を確定できない場合でもお申込いただけます。

日程	令和6年7月8日(月)～7月12日(金) (5日間)
場所	市町村職員中央研修所(市町村アカデミー) 千葉市美浜区浜田1丁目1番地
対象	市区町村職員 中堅職員以上
定員	40名
経費	8,800円(食費を除きます。また、教材用図書費が別に必要となる場合があります。)
申込期限	令和6年5月7日(火)
申込方法	※当研修所ホームページの「募集中の研修」より申込みを希望する科目を選択し、「電子申込み」で申し込んでください。 ※FAXによる申込みは、令和6年度から廃止しました。 ※受講者が未定な場合でも、申込み可能です。

申込み・問合せ先

市町村職員中央研修所研修部

TEL 043-276-3126 URL <https://www.jamp.gr.jp>

※記載内容は、都合により変更となることがありますので、あらかじめ御了承ください。

研修のご案内は「JAMP Newsletter」でも配信しています。

登録はこちら 

JAMP Newsletter

検索

(<https://www.jamp.gr.jp/issue/mailmagagin/>)


7月8日/月

13:15 - 14:45
入所

15:00 -
オリエンテーション・開講式

16:30 -
課題演習 

翌日からのグループ討議を行う前段として、班ごとに分かれ、互いの地域や農業の特色などを紹介し、受講生同士で交流を深めつつ、自らの地域の誇るべき点や直面する課題を客観的に見つめ直します。

9:00 - 12:00 
スマート農業の最前線と
今後の展望

株式会社日本総合研究所
創発戦略センターエキスパート

三輪 泰史 氏

高齢化、担い手不足が進む農村部を抱える自治体の皆さん、スマート農業には関心がある、しかしこういった技術をどのように使えばわからない、そんな声が地域の農家さんから聞こえてきませんか。地域で農業のデジタル化を進め、儲かる農業を実現することは定住増や税収増に繋がります。本研修では、日本の農業の現在地を把握した上で、行政としてスマート農業をどのように使うかを考えていきます。

13:00 - 14:10 

農業農村における
情報通信環境整備のための
農林水産省の支援施策

農林水産省農村振興局

我が国の農村地域では、少子高齢化・人口減少等により、農業生産における労働力不足への対応や生産性向上の観点から情報通信技術を活用したスマート農業に期待が高まっています。農林水産省では「農山漁村振興交付金(情報通信環境整備対策)」により、スマート農業の実装に必要な情報通信環境(光ファイバ、無線基地局)の整備に必要な支援を行っています。事業に取り組もうとする団体への支援策として、交付金制度や官民連携の事業推進組織による活動等、スマート農業導入に向けた農林水産省の支援施策をご紹介します。

14:25 - 15:35 

事例紹介
データで人と人がつながり、
地域の農業が盛り上がる!

<所得向上～後継者育成～地域産業の育成へ>

高知県農業振興部 IOP推進監
岡林 俊宏 氏

限られた農耕地において収益を上げるため、古くから生産効率を意識した農業を行ってきた高知県。近年では、農業先進国オランダからも学び、「データ駆動型農業」を導入し、農業の生産効率では、他の都道府県を寄せ付けず圧倒的に1位となっています。農業を持続可能な物とするため、農村を抱える自治体は今、何をなすべきなのか、高知県の取り組みを通じて学びます。

15:50 - 17:45 

課題演習

班ごとに分かれ、それぞれの地域の農業が抱える課題や自身が把握する農業の振興に関する効果的な施策や事例などについて意見交換し、互いの自治体の共通点や差異、悩み等を共有することで自身の地域の現状を客観的に見つめ、課題解決の糸口を探ります。

9:00 - 17:45 **実地研修****バスで千葉市農政センター・いすみ市へ実地研修に行きます。**9:30 - 10:30 **講義****現場で学ぶDX時代の千葉市の農業**

千葉市農政センター

千葉市農政センターは、2022年、スマート農業の実証フィールド化、栽培試験・研修の強化、農業技師の指導力強化の3つを柱とするリニューアルプランを策定し、千葉市農業の成長産業化を支援する現場の拠点となっています。

農政センターを訪問し、スマート農業機器導入による生産性向上、データ活用ができる農業者の育成などDX時代の農業の取組について説明いただきます。

13:00 - 14:30 **講義****現場で読み解くスマート農業、地域ブランディング**

株式会社SOTOBO ISUMI 取締役、
NTT東日本地域ICT推進部担当課長
三木 篤 氏

京葉銀行、NTT東日本千葉事業部、いすみ市の連携のもと2019年に設立された地域商社SOTOBO ISUMI。

IoT技術を活用した超低温冷凍庫の温度遠隔監視するシステムを開発や地域の子供たちのICT機器の活用支援などにも取り組むSOTOBO ISUMIですが、今回は、県内有数の農地面積を誇るいすみ市で水田の水管理を千葉発のベンチャー企業「ワイヤレスデザイン」等と連携して実証実験を行い、有機米栽培における水管理の効率化を実現した現場などを訪問し、講義いただきます。

14:30 - 15:40 **講義****視察が絶えない有機給食～有機を通じた地域所得、地域魅力の向上～**

千葉県いすみ市農林課有機農業推進班班長
鮫田 晋 氏

米価下落が影響し、高齢化や担い手不足に見舞われ、先行きの見えない状況が続く中、千葉県有数の米の産地いすみ市は2013年から有機米栽培に活路を見出しました。

農家の希望で始めた学校での有機米給食は、全国で評判となり、地域所得の向上に寄与しています。いすみ市土着菌完熟堆肥センターを訪問し、現場でその取組を説明いただきます。

9:00 - 10:35 **講義****「農業×ICT」を通じた地域経済の活性化や街づくりをめざして～官民コラボの農業戦略～**

株式会社NTTアグリテクノロジー

地域でスマート農業に取り組むには、行政の力だけではなく、民間企業との連携が不可欠です。「農業×ICT」を通じて全国各地で地域経済の活性化に取り組むNTTアグリテクノロジーから講師をお招きし、ICTを活用しての生産性、収益性向上の具体例や行政との連携しての取り組みやその成果などについて講義いただきます。

10:50 - 12:00 **講義****地域おこし協力隊を活用した農業デジタル人材の育成**

長野県上田市産業振興部農業政策課

全国同様、農業経営体数の減少に直面する上田市では、新規就農希望者がスマート農業を学ぶことで自身の就農へ活用するだけでなく、地域におけるスマート農業を実装するリーダーとして育成するプロジェクトを実施し、今年度、地域おこし協力隊員から新規きゅうり農家が生まれました。上田市がDXを活用し、どのようにサポートしたのか事例紹介いただきます。

13:00 - 15:35 **講義・演習****DXを活用した地域ブランド戦略～お金をかけずに稼ぐ方法**

PRプロデューサー
一般社団法人地方PR機構代表理事
殿村 美樹 氏

地域の農産品、地域の人は気づかないけれど、外から見れば魅力の塊です。3000件以上の地方PR実績を持つ「今年の漢字」「ひこにゃん」「うどん県」などの仕掛け人からDXを活用した効果的なPR手法、販売戦略等について講義いただき、演習を通じて実践力を高めます。

15:50 - 17:45 **討議****課題演習**

現地視察や講義内容を踏まえ、受講生が地域で直面する農業に係る課題・問題点を解決するため、自治体で取り組むべきことについて班別討議を行い、政策立案能力やコミュニケーション能力の向上を目指します。最終日に班別に発表を実施し、講師から講評をいただきます。

9:00 - 12:00 **発表・講評****課題演習**

株式会社日本総合研究所
創発戦略センターエキスパート
三輪 泰史

前日の課題演習で実施した班別討議の内容を各班ごとに発表し、その内容について講師から講評をいただきます。今回の研修での現地視察や講義、班別討議、発表、そして講評を通じて、受講者自身が今回の「DX時代の農業戦略」をはじめとする農業に関する知識を習得するに留まらず、自治体政策全体の企画力、実行力の向上に繋がることを目的としています。

12:10 - **修了式**